

子どもたちが昔の遊びを体験

●遊び体験イベント「白い風と遊ぼう」



▲木工遊びコーナーでは、竹馬づくりに挑戦

遊び体験イベント「白い風と遊ぼう」が2月6日、市中央公民館などで開かれ、子どもたちがけん玉や雪像づくりなどで昔ながらの遊びを楽しみました。はじめに、語り部による昔語りと仔やぎの会による人形劇が行われ、子どもたちは懐かしい秋田弁で語りかける物語に引き込まれていました。また、けん玉やこま、紙風船や紙相撲など昔の遊び道具が並び、木工遊びでは竹馬作りにチャレンジ。各コーナーでは子どもたちがスタッフから遊び方や作り方を教えてもらいながら、自由に道具を手にとって楽しんでいました。米代児童公園では、雪像づくりコンテンツも行われ、城や雪だるまなどカラフルで独創的な作品が並びました。

元気よく豆まきで鬼退治

●保育園幼稚園で節分行事



▲小学生と一緒に「心の中の悪い鬼、出て行け」と豆まきをする園児たち

2月3日は節分。市内の各保育園、幼稚園、神社でも恒例の豆まきが行われ、子どもたちや地域の人たちが鬼退治をして厄を払い、一年の無病息災を願う伝統行事を楽しみました。このうち、浦田保育園（柏木美貴子園長・園児8人）では、隣接する浦田小学校を訪れ、小学生のお兄さんお姉さんたちと一緒に豆まきを楽しみました。園児たちは、自分でつくった鬼のお面を頭にかぶり、「鬼は外」、「福は内」、「心の中の悪い鬼、出て行け」と、豆に見立て丸くした新聞紙をまいて各教室を回りました。その後、各教室につながるホールで暴れる鬼が登場。園児たちは「鬼は外」と豆をぶつけ、小学生たちの援護も加わり鬼を追い出しました。

野菜たっぷりヘルシークッキングに挑戦

●「親子 de クッキング」

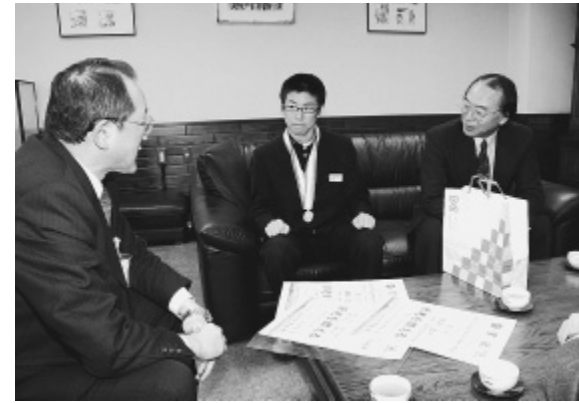


▲野菜ソムリエの先生の指導で野菜たっぷりの健康料理作りに挑戦した「親子 de クッキング」

鷹巣地区子ども会育成連絡協議会（湊屋啓二会長）が主催する料理教室「親子 de クッキング」が1月30日、市中央公民館で開かれました。参加者は、野菜ソムリエの松橋智佳さんから野菜を摂ることの大切さを聞いた後、「トマトの炊き込みご飯」「米粉の海鮮チヂミ」「野菜のデザート」などのメニューにチャレンジしました。子どもたちは包丁を使いながら、野菜やひじきを刻んだり、卵を溶いたり親子の触れ合いを楽しみながら料理を完成させました。彩りも豊かな料理の数々がテーブルに並び、調理室はレストランに早変わり。全員でおいしくいただき、料理と食の大切さを学んだ一日となりました。

たくさんの人たちに支えられた結果

●佐藤太一さん全国中学校スキー大会優勝



▲佐藤副市長に全国中学校スキー大会の優勝を報告する、佐藤太一さん

第47回全国中学校スキー大会の男子5キロフリーで優勝した、佐藤太一さん（阿仁中3年）が2月10日、市役所を訪れ、佐藤副市長に全国優勝の報告をしました。佐藤さんは「全国大会では、最初から飛ばしていった。夏の陸上でスタミナを鍛えた成果がでたと思います。優勝して地元に戻って来たら、みんなから祝福され、たくさんの人たちに支えられている結果だと感じました」と優勝の感想を述べました。佐藤副市長は「優勝は、夏から地道な鍛錬を繰り返した結果ではないか。高校地道に頑張ってもらいたい。ジュニアオリンピックでも精一杯頑張ってもらいたい」と今後の活躍に期待を寄せました。

道行く人にもあで姿を披露

●各神社で厄払い祈願



▲鷹ノ巣駅まで商店街を行進しあで姿を披露、賑わいづくりにも一役

市内の神社で2月1日、恒例の厄払い行事が行われ、善男善女が神前で厄除けを祈願しました。このうち鷹巣神社では、黒留袖に丸髷姿で参加する女性が多く、厄年を無事に乗り切ることができるよう、神前に玉串を捧げ、厄除けを祈願しました。その後、通称「女の神様」として知られる元町の三吉神社にもお参り。この後女性たちは、中心商店街のにぎわいづくりに一役買おうと、そのままの正装姿で鷹巣駅前の目抜き通りを行進し、商店や道行く人たちから注目を浴びていました。また、森吉地区でも33歳の女性、42歳、62歳の男性が参加しての合同祈願祭が行われ、厄除けと互いの多幸、長寿を祈りました。

今年は『やや不作』とのご託宣

●民俗行事「雪中稲刈り」



▲農業関係者らが見守る中、作占いをした「雪中稲刈り」

小正月に行われる民俗行事「雪中稲刈り」の稲刈りが2月1日、綴子地内の大太鼓の館前で、今年の稲作の豊凶を占いました。刈り手は、稲を植えたJA鷹巣町青年部長の堀内英俊さん。農業関係者らが見守る中、田植えのときと同じ昔ながらのけら、菅笠姿で鎌を使い、稲の束を一株ごと慎重に刈り取っていききました。刈り取られた稲は、篤農家の畠山喜久雄さんによって見立てが行われました。畠山さんは「平らに植えたものが、片方だけ雪が溶けている。大雨や洪水などで稲が転ぶことが考えられる。稲自体もいい年とは言えない。今年は残念ながら『やや不作』だろう。今年の占いは外れてほしい」と、稲作の豊凶を占いました。